



外国出張報告書

平成 26 年 9 月 2 日

1. 出張国名 ベナン、トーゴ
2. 出張月 平成 26 年 8 月
3. 出張目的 Africa Rice Center が実施する「内陸低湿地のための水田、市場アクセス、コメ生産技術 (SMART-IV) プロジェクト」の評価：B

4. 成果の概要

Africa Rice Center (AfricaRice) が農林水産省の委託を受けて、今年9月までの5年間実施している「内陸低湿地のための水田、市場アクセス、コメ生産技術 (Sawah, Market Access and Rice Technologies for Inland Valleys: SMART-IV) プロジェクト」の評価を行った。

このプロジェクトは、西アフリカの低平地でのコメ生産と市場価値向上を目的としており、AfricaRice の本部が置かれているベニン国、及びその西隣のトーゴ国の研究機関等と共同で、実験圃場や周辺農地においてアジア型水田の実証研究を実施した。

訪れた実験圃場では、1年間の技術研修を受けた農民が、自らの農地で、人力で畔を作り、農地を耕し、移植栽培を行っていた。収量の増加は著しく、かつて1.5-2.0ton/ha 程度であったコメ収量が、4.5-5.0ton/haになったとの報告を受けた。また、Africarice 本部で受けた研究成果の発表会では、10カ所の実験圃場における土壌条件を比較し、収量に影響を与える要素が分析されていた。また、経済分析も行われ、既に2カ所の実験圃場では農家経営上も収益が得られている事が報告された。

2012年春に行われた中間評価では、進捗の遅れが目立っていたようであるが、今回の最終評価では、現場での技術定着が著しく、農民がAfricaRice やトーゴ国、ベナン国の研究者に対して感謝している姿が印象的であった。

また、ベナン国では、JIRCAS が英語で作成し、JIRCASとAfricaRice によってフランス語版を作成した「アフリカ内陸低湿地における水田整備及び栽培技術のマニュアル」の現地語 (Fon 語、Nago 語) 版の作成が予定されており、技術の更なる普及が期待できると思われる。